

# 地形に寄り添い、市民とつながる市庁舎『みんなの段』

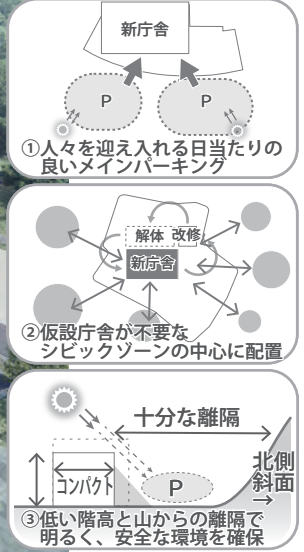
— 桜川の地形・歴史・市民をつなぐ協働の舞台 —

デジタル化や情報化の急速な進展によって「行政手続き」が簡略化され「新たなコミュニケーション」が促進される現代において市庁舎は、あらゆる人々が快適に利用でき、まちの将来について語り合えるような“リアルな”活動の広場、まさに“シティ・ホール”となります。

私たちは、山の裾野に様々な活動の“拠点”が段状に集まるこの地で、市民の日々の営みと自然の「風景」（地形）が折り重なり、未来へとつなぐ、「みんなの段（ステージ）」をつくりまします。



## 基本的な配置の考え方



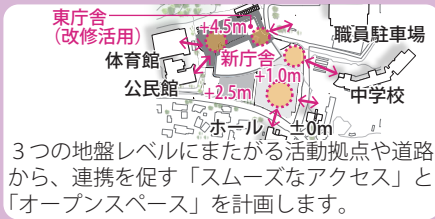
基本的な考え方

## 桜川市・大和地区・敷地の特性を深く理解した『3つの指針』を提案します

・私たちは、「市全体の特性」、「大和地区の位置付け」、そして「新しい庁舎が建つ敷地」という、異なるスケールにわたった広い視野をもち、羽田山の裾野に“拠点”が段状に集まる“この地ならではの”「特性」を、この地ならではの“の「魅力」へと昇華させる、大きな『3つの指針』を提案・共有しながら本業務に臨みます。

指針① 市の行政中心（大和地区）に対する考え方

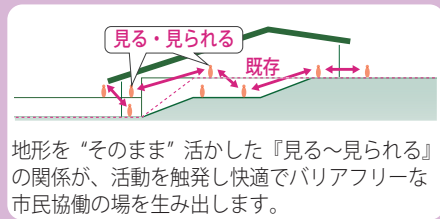
### 歴史も踏まえた行政エリアの再構築



3つの地盤レベルにまたがる活動拠点や道路から、連携を促す「スムーズなアクセス」と「オープンスペース」を計画します。

指針② 特徴的な地形の敷地に対する考え方

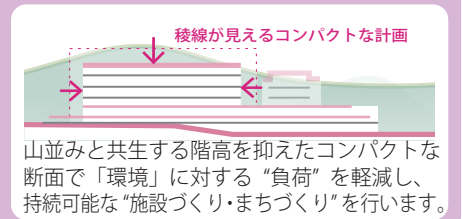
### 地形を活かした見る～見られるの構成



地形を“そのまま”活かした『見る～見られる』の関係が、活動を触発し快適でバリアフリーな市民協働の場を生み出します。

指針③ 市の豊かな山並みに対する考え方

### 山並みに呼応した風景・環境づくり



山並みと共生する階高を抑えたコンパクトな断面で「環境」に対する“負荷”を軽減し、持続可能な“施設づくり・まちづくり”を行います。

図 1-1：地形を活かし現東庁舎も活かす「配置イメージ」

桜川市景観まちづくりマスタープランと連携した景観形成の考え方

## 桜川の景観や地形と融合した市民協働の場「段（ステージ）」のカタチ

・桜川市の景観まちづくりの考え方や、この地の持つ地形や地勢を新庁舎の構成に活かします。桜川市さらには羽田山のもつ地形的な豊かさをつなぎ、未来へと引き継ぐべき新たな街の中心を創出します。

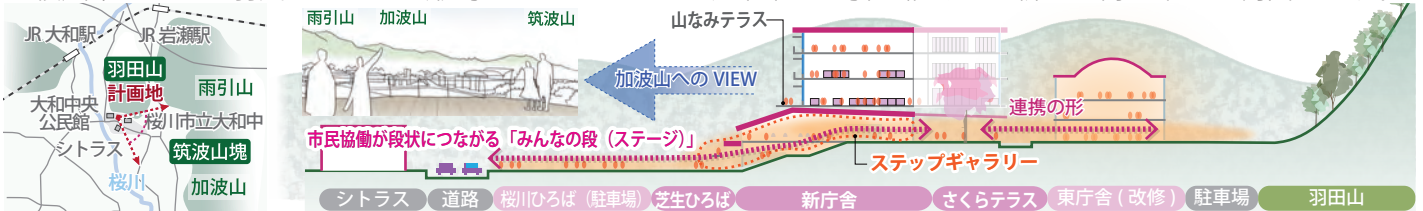
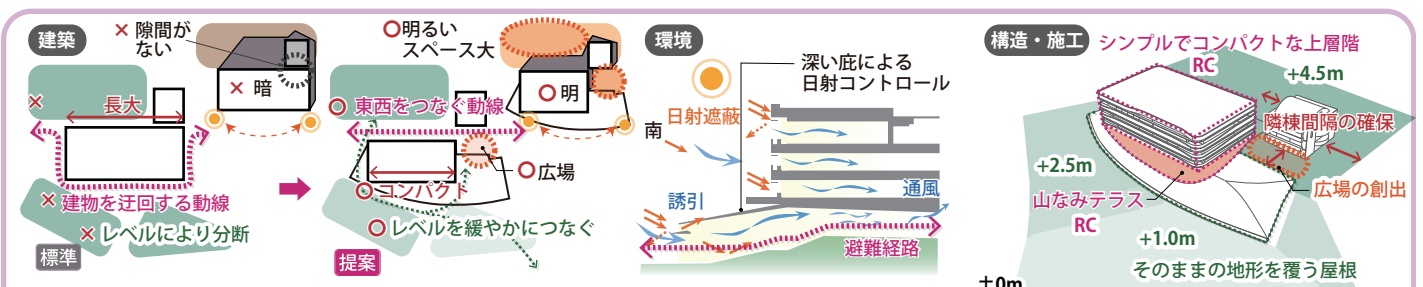


図 1-3：桜源郷（まちづくりマスタープラン）と呼応する段（ステージ）としての建築

## 建築・環境・構造が一体となる「敷地特有の地形に屋根をかけた低層部」+「コンパクトな上層部」の基本構成



- コンパクトな配置と広場により北側のエリアを明るいスペースに
- 周辺動線を整える配置計画
- 地形を素直に活かしつつ、すべての人に優しいバリアフリー空間
- 自然風を取り込む地形に沿った大屋根
- 日射調整とメンテナンス・避難経路を兼ねるバルコニーとライトシェルフ
- 土工事を最小化し、安全性も高める地形をそのまま活かした低層階
- PC化も視野にコンパクトで合理的な上層階

図 1-4：建築・環境・構造の性能を高める地形を活かした考え方







(ア) 防災拠点としての計画性

# 安全・安心・業務継続力を発揮する防災拠点庁舎

国土交通省が示す最高基準の耐震安全性を確保

## 【安全】コンパクトかつ堅牢な高耐震庁舎

### ① RC造による耐震構造ベースに検討

- コストや地盤状況を踏まえて耐震構造をベースに耐震安全性I類を確保し、基本設計期間での地盤調査結果や市との対話の中で、構造方式（在来 or PC）を検討します。

### ②安全で見通しの良い市民協働エリアを実現する構成

- 適正スパンで柱を配置した執務エリアを水平力を負担できるRC造でコンパクトにまとめます。
- 1階共用部は、屋根を軽量化（S造）することで、開放性と可変性の高い市民協働エリアを実現します。
- 水平力の負担はRC造を基本とし、建物の変形を小さく抑制することが二次被害防止（漏水、設備損傷など）に繋がります。

### ③自然災害への備えを利便性・経済性へ繋げる



図 3-3: 十分な離隔によるレベル設定

- 北側の急勾配の崖地や前面道路からの離隔距離を確保し、水勾配程度で室内の床レベルを上げることで、土砂災害やゲリラ豪雨時の浸水対策に配慮します。
- 掘削や盛土を最小限に抑え、雨水の涵養を促すと共に、解体の際には既存庁舎の杭の存置も検討することで、地盤の安定性やコストの適正化を図ります。

十分な防災設備や自立性を備えたライフラインの構築

## 【安心】災害対策本部機能の集約と行政エリア・市民エリアの連携

- 「市長公室」・「総務部（危機管理課含）」・「防災対策室」を3階に集約して配置し、機能が近接することで、迅速に防災活動を展開します。
- 「ステップギャラリー」は災害情報の発信の場とし、「東庁舎」は職員休憩所やボランティア支援、「大会議室」は一時避難所として機能することで、「災害時に連携がしやすい構成」とします。

十分な防災設備や自立性を備えたライフラインの構築

## 【業務継続力】バックアップ機能の多重化

- 自然換気、太陽光発電、雨水利用などの自然の恵みを活かしたパッシブな仕組みを災害時にも継続運用が可能な計画とします。
- さらに非常用発電機の運転は、あらかじめ設定したモードの選択（BCPモード構築）により、負荷を抑制した電力運用が可能な計画とします。

安全性の確保について

## 機能の集約による「エリア・棟・階」毎に明快に対応したセキュリティライン

- 東庁舎および新庁舎東側に会議室エリアを集約配置することで、休庁日の会議室の市民開放や東棟の独立利用がしやすいセキュリティ計画となります。
- 東側EVを休日開放時の利用者動線とすることで、2階のテラスや議場開放のしやすい計画とします。
- 上層階は、関連部署をワンフロアに集約し、利用者の利便性向上と階毎のセキュリティ設定を容易にします。

構造形式	イメージ	コスト	掘削量	地震時のゆれ	平面計画の制約
耐震構造	大断面の柱梁	◎	基礎ビット掘削量の最小化が可	△ 小さい	大断面の柱梁により耐震壁少
制震構造	制震ダンパー	○	基礎ビット掘削量の最小化が可	○ かなり小さい	制震ダンパー配置により制約有
免震構造	免震装置	△	(基礎)免震ビット分の掘削量が必要	◎ 最も小さい	耐震壁無しEXP制約有

図 3-1: 耐震構造を基準にし構造形式を総合的に判断

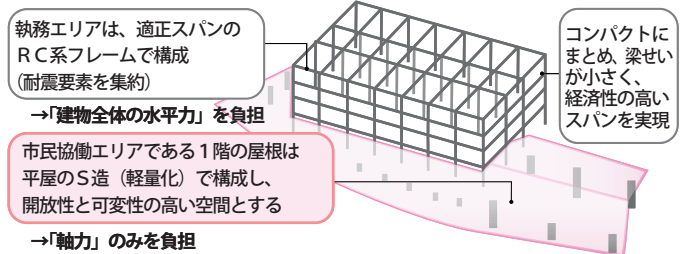


図 3-2: 耐震要素を集約した構成

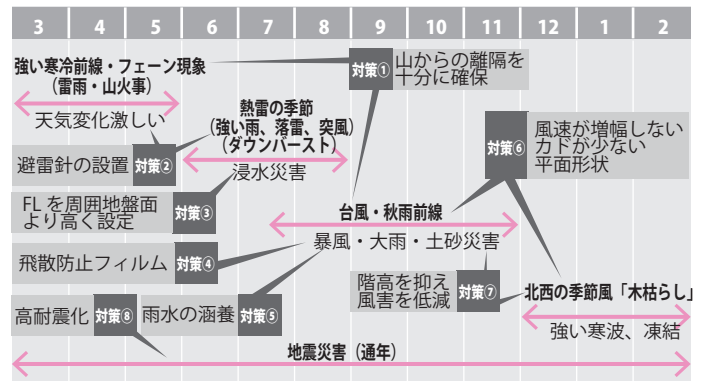


図 3-4: 桜川市の季節毎の災害特性の分析と対策

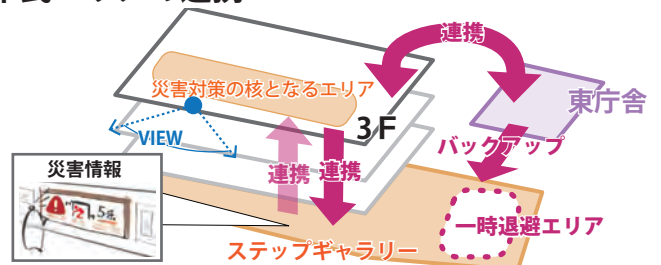


図 3-5: 災害対策本部機能連携の構成

非常電源	1 発電機（最大7日分想定）BCPモード構築	ELV	11 災害時の物流対応、自家発電運転
	2 太陽光パネル（新設+既存移設検討）/無停電電源		12 天井・床輻射空調による無天井化
情報通信	3 光・メタル・無線化による多重化+衛星電話対応	建築計画	13 バルコニーの設置によるガラスの落下防止対策
	4 県の防災情報システムと連携したネットワークの構築		14 駐車場の緊急車両ルートの確保
	5 市民開放ゾーンへの災害時対応モニターの設置		15 かまどベンチ・マンホールトイレ設置
給水	6 受水槽・雑用水槽による備蓄（災害時7日分）	構造	16 RC系の構造体を基本として変形を極力抑える
	7 雨水利用		17 躯体モニタリングシステム（建物安全度判定支援）
排水	8 7日分の汚水を貯留できる非常用排水貯留槽	水害対策	18 1階床レベルを周囲地盤より高く計画（浸水防止）
空調	9 非常電源を用いた暖房システム		19 重要設備機械の2階以上への設置
換気	10 自然換気・自然通風の採用		20 余裕のある雨量計算でゲリラ豪雨対策

図 3-6: 災害時のバックアップ機能一覧

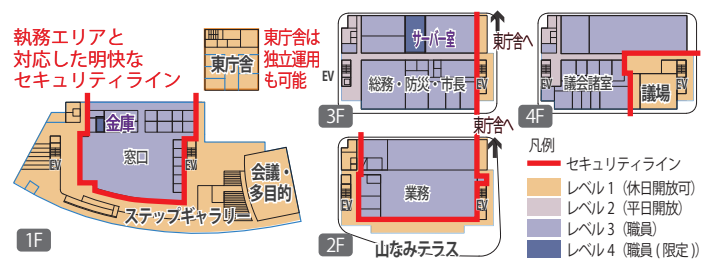
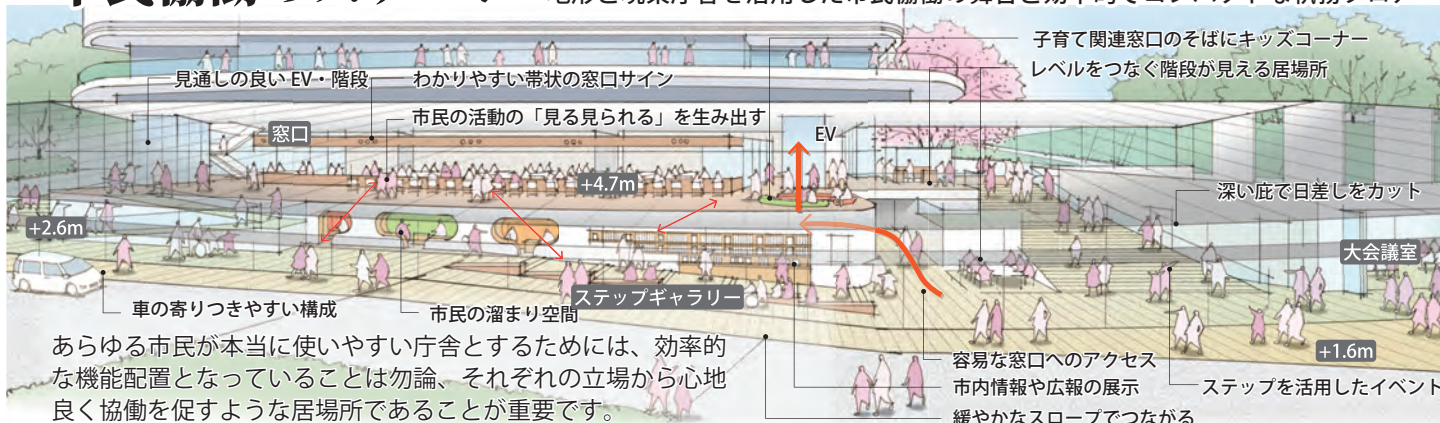


図 3-7: 機能集約が明快なセキュリティ計画を実現

# 市民協働のステージ

—地形と現東庁舎を活用した市民協働の舞台と効率的でコンパクトな執務フロア—



あらゆる市民が本当に使いやすい庁舎とするためには、効率的な機能配置となっていることは勿論、それぞれの立場から心地良く協働を促すような居場所であることが重要です。

私たちは、今の地形をありのまま活かし、多様な居場所で滑らかにつなぐ、すべての人に優しい「市民協働のステージ」を作ります。

図 4-1：ありのまま地形を活かし、市民の居場所が滑らかにつながるイメージ  
来庁者が心地よく安心して利用できる計画

新庁舎と東庁舎の機能を関連させながら地形を活かした提案

## 段差を素直に活用しながら各機能をつなぐ

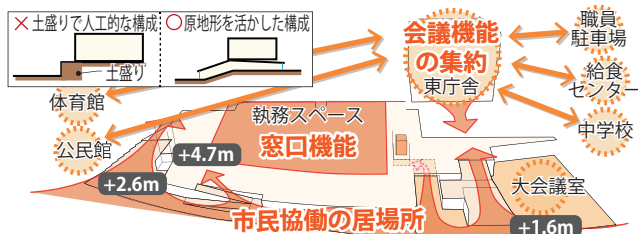


図 4-2：段差をそのまま活かしながら各公共機能をつなぐ

- ・地形にそのまま屋根をかけたような構成とし、市民協働の居場所として設えます。
- ・東庁舎には市民も利用できる会議室機能を集約し、市民協働の居場所や周辺施設とつなぎます。

来庁者の目的が効率よく完結するような動線の考え方、魅力的と思われる空間の構成や各課の配置計画

## 関連部門がワンフロアにまとまった市民も職員も使いやすいコンパクトな計画

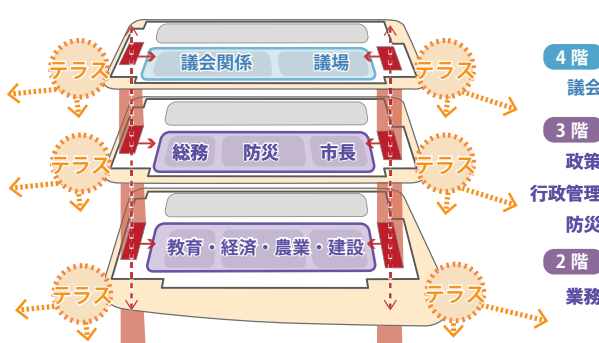


図 4-4：関連部署がコンパクトにまとまる機能的な各階構成

- ・上層階は、関連性の高い部課や機能を階毎にまとめる計画としつつ、各所にリフレッシュテラスを設けることで合理性と快適性を共に高める計画とします。

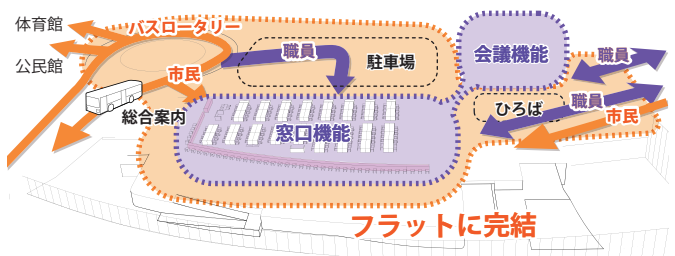


図 4-6：ワンフロアで完結する窓口部門

- ・窓口部門は、市民も職員も使いやすい庁舎とするため、低層階にまとめ、公共交通機関から「フラット」で完結する計画とします。

## 段差を市民協働の居場所ですゆるやかにつなぐ

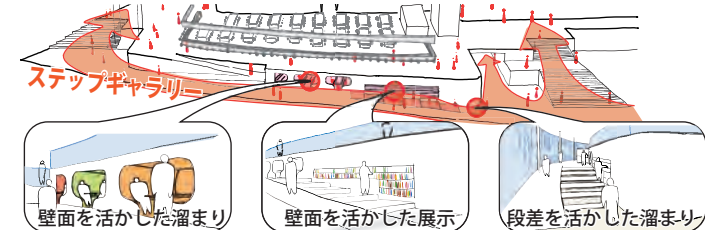


図 4-3：段差や壁面を活かした多様な居場所や仕掛け

- ・各段差へは、エレベータやゆるい勾配のスロープで緩やかにつなぐ計画とします。
- ・手すりや壁面を活かし、情報スペースやベンチ、休憩スペースなどの協働の仕掛けを散りばめます。

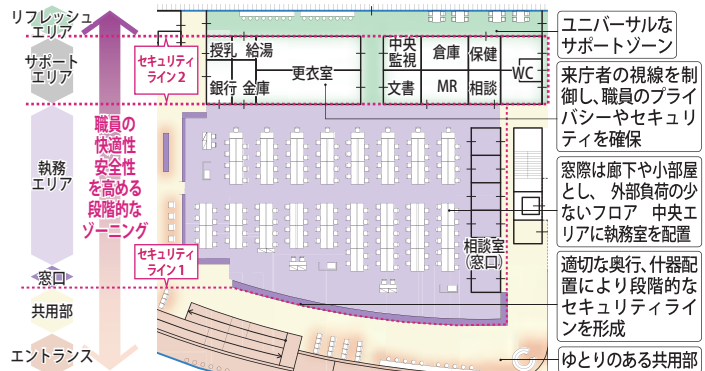


図 4-5：執務室内の明快なゾーニングにより職場の快適性を高める

- ・各執務室は、窓口エリア・執務エリア・サポートエリアの段階的なゾーニングとし、職員の快適性・作業性を高めることで、市民サービスを向上させます。



図 4-7：あらゆる立場の人に配慮した窓口廻りの考え方

- ・窓口部門には、市民の相談内容に応じ、プライバシーに配慮したカウンターや個別の相談室、キッズコーナーなどを適宜、設置します。



(ウ) 機能性と経済性の両立及び計画の実現性

# 桜川の恵みと敷地固有の地形を活かす

ー省エネルギーとウェルネスを両立する庁舎ー

無駄を省いたシンプルな計画

## 「気候・地形を活かした省エネルギー」と「各機能に適合した環境づくり」で ZEB 庁舎を実現

- 桜川市の気候特性を活かして環境性能を高める建築計画に加え、先端技術と標準技術を組み合わせた省エネルギー化、運用の最適化、創エネルギーの活用により、ライフサイクルコストを縮減した上でウェルネスの向上も目指します。
- さらに、工事段階だけでなく、建材・機材の運用段階、製造・施工段階も含め、建物の生涯を通してCO2排出量エネルギーコストの最小化に取り組みます。

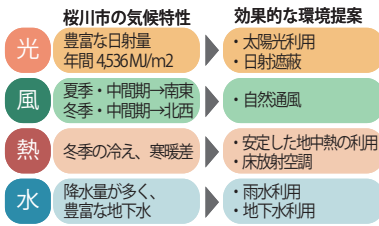


図 4-1: 環境特性に特化した提案

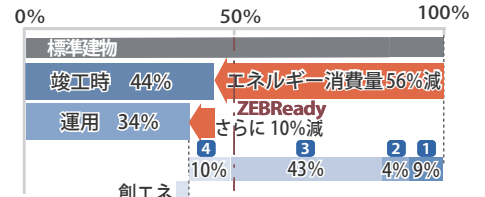


図 4-2: ZEB Ready 基準に適合させるアプローチ

### 4つの効果的なアプローチが徹底的にエネルギー消費を削減

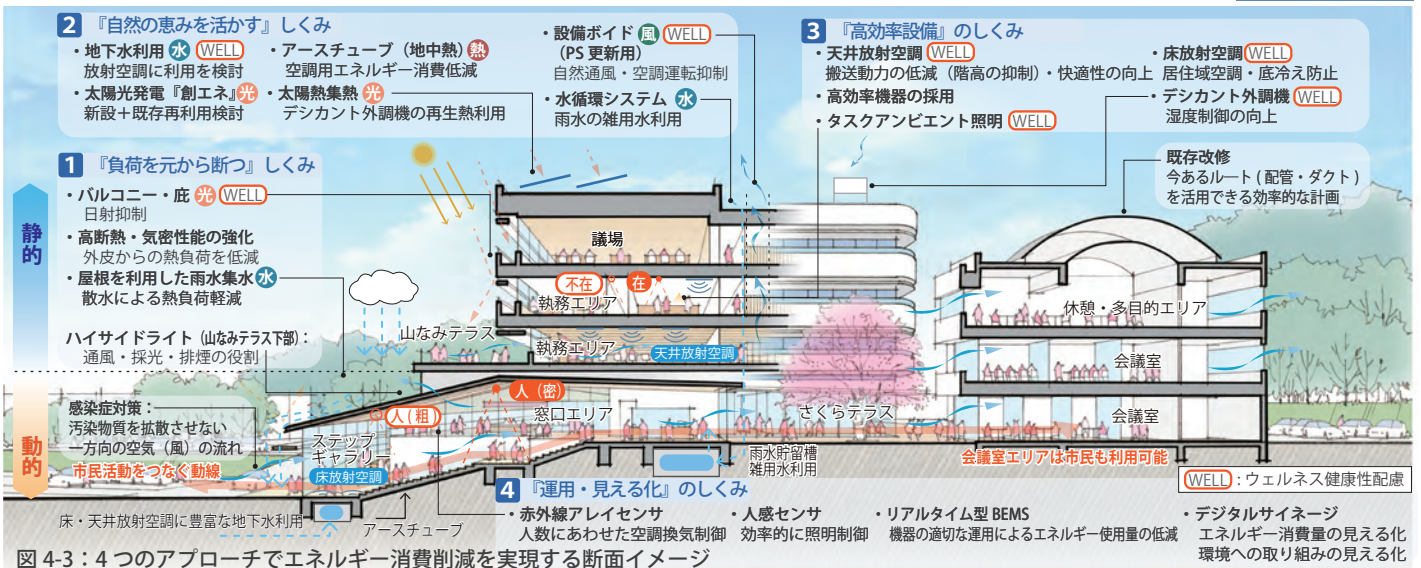


図 4-3: 4つのアプローチでエネルギー消費削減を実現する断面イメージ

### 人の粗密（動・静的）に応じたモード（ふるまい）が、省エネ+ウェルネスに優れた環境をつくる

- 上層階の執務エリアでは天井放射空調を採用、職員の知的生産性（快適性）の向上に寄与し、良質な行政サービスの提供に貢献します。
- 低層階の市民が集いにぎわうエリアでは体感性のよい（底冷えない）床放射空調を採用し居心地の良い空間を実現します。さらに人数の変動に合わせて空調・換気・照明を制御するオンデマンド環境制御で過剰な（無駄な）運転をなくし、運用コストを削減します。

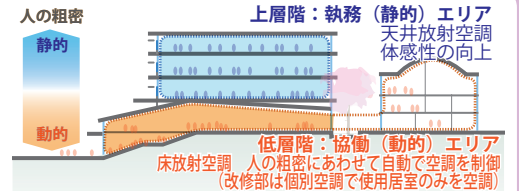


図 4-4: エリアの特性に応じたシステムでコストと快適性を両立する仕組み

将来のランニングコストの縮減を効率的に実現

### 桜川環境と地形を活かしたシンプルな構成がライフサイクルコストを抑える

- イニシャルコストを抑えるため、桜川市の環境や本敷地の地形を活かした、計画・構造・環境を最適化する提案を行います。また、これらの提案は、ランニングコストへの低減にも寄与し、LCC（ライフサイクルコスト）で25%の削減（100年）を実現します。

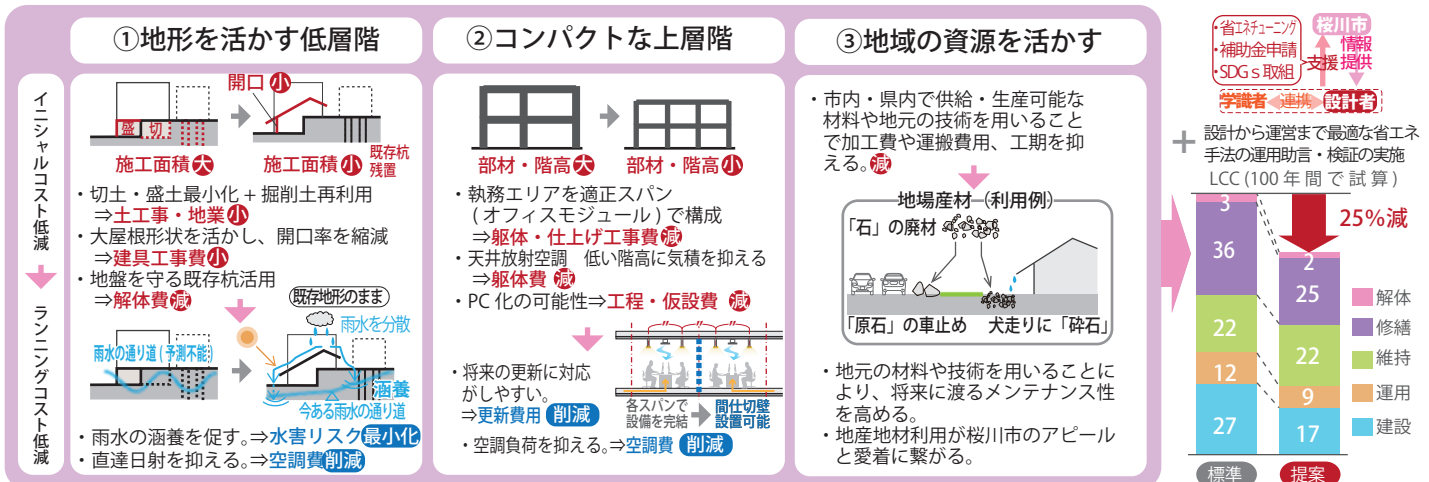


図 4-5: 標準建物とのライフサイクルコスト（LCC）比較（100年）



(オ) 仮設計画

# 「高効率」で「安全」な工事を実現する地形に沿った庁舎

工事中であっても市民サービスの低下が最小限となる仮設計画

## 最小限の工程で約1年の全体工期短縮を実現する『高効率』なローリング計画



図 6-1：スペース減少や仮設利用が生じないローリング計画

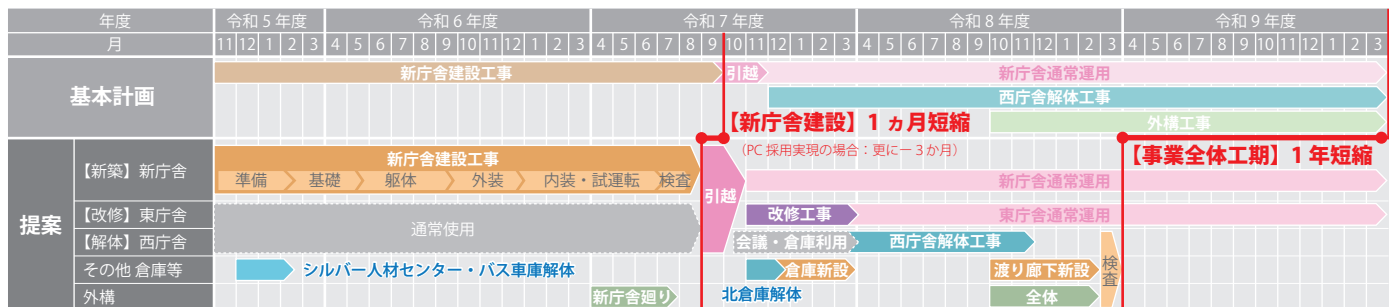


図 6-2：想定事業工程を約1年縮減する全体工程

- ・シンプルな新築部と高効率な解体・改修・引越計画とすることで、事業全体工期を1年短縮します。
- ・現庁舎・車庫・倉庫など今ある施設を使いながら順次工事を行うことで、一切の仮設棟を建設せずに、常に各倉庫等も含めた必要スペースを確保します。
- ・地形に沿って新庁舎を計画することで、掘削土が最小限となる効率的な計画とします。
- ・掘削土は、西庁舎解体後の埋戻しに活用し、残土処分の少ない低コストで環境に優しい計画とします。
- ・西庁舎解体時には既存の杭を残置することで、工期短縮・コスト縮減に寄与するとともに、安定した安全な地盤を維持する計画とします。

	北側新庁舎案（仮設棟が必要）	本提案
完成時イメージ		
工事中の駐車場確保	仮設棟の設置により、同時期に敷地内を工事エリアとして使う範囲が広くなり工事中の駐車場確保が困難	棟毎の工事移行期を除き、一定の空地が得やすいため、工事中の駐車場確保が比較的しやすい
安全性	狭小作業期間が長く工事中の安全確保が比較的しにくいほか、本庁舎完成後も北側法面との距離が近いため、土砂災害発生時被害が大きい。	狭小作業期間が短く工事中の安全確保が比較的しやすいほか、本庁舎完成後も北側法面との距離を一定確保するため、土砂災害発生時被害が少ない。
工期	引越しの回数が増えるほか、解体工事と仮設工事の重複作業が困難なため工期が大幅に伸びる	引越しの回数が少なく、敷地内の現施設も有効に活用していくことで、工期を大幅に短縮することが可能
コスト	仮設棟建設・解体の費用だけでなく、引越費用・各種申請費用も増加する。	仮設棟の計画・建設・解体・引越に関する費用が発生しない。

図 6-3：仮設棟の建設を行わないことによるメリット

## 「今まで通り」の動線や地形を最大限活かし、工事中も完成後も『安全』を担保する

- ・外構の高低差設定は、極力、大々的な掘削・盛土等を行わず、「今まで通り」の地形を活かす計画とすることで、完成後・工事中共に土砂災害リスクを抑え、低コストな計画とします。

図 6-4：現状地形をそのまま活かす

- ・公共交通機関の発着場所も含めた利用者の車両アプローチ動線は、完成後・工事中共に「今まで通り」に西側斜路を活かす計画とすることで、慣れ親しんだ混乱の少ない計画とします。

図 6-5：現状と変わらない動線計画



# 「協働の庁舎」を市民と共につくる ー豊富な庁舎実績と桜川での設計経験を活かすー

本計画は、岩瀬・大和・真壁の3つの地域をひとつにし、市全体が改めて強い団結で結ばれるための「契機」となります。そのためには「いかに各関係者の納得感を醸成していくか」という視点がとても重要であり、『共につくる』というプロセスが、市民の皆様の愛着を深め、育んでいくと考えます。

私たちは、市民との新たな協働を通して、地域の方々の想いを受けとめ、かたちにするプロセスをみなさまと共有し、その成果を着実に反映していきます。



図 7-1：前面道路からのメインアプローチ：羽田山を背景に大和の風景に溶け込む新庁舎

実施体制

## 桜川市の地域特性を十分に理解した、最新の庁舎実績が豊富なチームで取り組みます。

- ・桜川市に精通し、本敷地の特性を十分に理解したチーム編成で、あらゆる業務をスムーズに遂行します。
- ・防災・構造・環境など最新技術を持つ社内技術部門が強く連携して計画を進めます。
- ・庁舎のあり方や防災設計、その設計プロセスを熟知し、まちづくりなどの経験も豊富な管理技術者のもと全社的に設計に取り組みます。
- ・コスト部門が、変動が著しい現在の建設市場をリアルタイムで分析・コントロールして進めます。

綿密な  
コミュニ  
ケーション

綿密な  
コミュニ  
ケーション

### 桜川市

公共施設建設室 関係各部署 市議会 関連施設

#### 組織設計事務所 (最新庁舎を含め100を超える庁舎設計実績)

#### 地元設計事務所

**管理技術者**

**建築(意匠)**

**建築(構造)**

**建築(積算)**

**電気設備**

**機械設備**

**建築総合**

最新の庁舎実績から高い防災機能を含む施設まで、様々な公共建築の企画～設計～運営まで熟知し、本業務にその経験を十分に活かします。

最新の庁舎実績を有し市内の業務にも精通していることから、特徴的な本敷地の特性に対して様々な視点で分析的に設計を行います。

PC造をはじめとするあらゆる種別や敷地条件下(斜面地など)の構造設計実績が豊富で、地震から水害まで、安全に配慮した設計を行います。

全国で多様な積算経験があり、PC造等の積算実績も有しています。物価トレンドと地域性を考慮しながら積算を行います。

最新の庁舎実績をはじめ、災害対応パッケージ設計等に深い造詣、全国で多様な実績があり、その経験を活かします。

同種・同規模物件の実績が豊富です。庁舎は各機能によって求められる温熱環境が異なるため、目的に即した適材適所の快適な環境を省エネに創ります。

庁舎・教育施設をはじめとし桜川市内・茨城県内に多数の公共施設実績を有しています。地域基盤を活かした視点を発揮し、関係各所との調整などでは迅速でスムーズな連携を図ります。

#### 設計チーム

図 7-2：庁舎・災害対応施設の設計と桜川に精通したベストマッチの体制  
市民や職員の見解の反映手法

工程計画・コストコントロールについて特に重視する点

## 複雑な工程・工事を整理し筋道をたてる

- ・本業務には、行政サービスを持続しながらの、「新築」「解体」「改修」「外構」と様々な工事が含まれているため、設計業務初期に関係者との密な対話の中で運用開始までの綿密なスケジュールを提案します。
- ・地域だけではなく、全国ネットの実績を活かし、あらゆる工事において、リアルタイムで蓄えた豊富なデータベースを根拠とする精度の高い「コストリスクマネジメント」で市の発注業務を徹底サポートします。

## あらゆる意見を検証し施設づくりに反映させる仕組み



図 7-4：市民・職員の見解を汲み取り整理して反映

- ・意見収集とフィードバックを通して、みなさまが“共感”できる方針を導きます。
- ・市民ワークショップとはたらきかた会議(職員+有識者)を連動して意見を積み、設計に反映します。

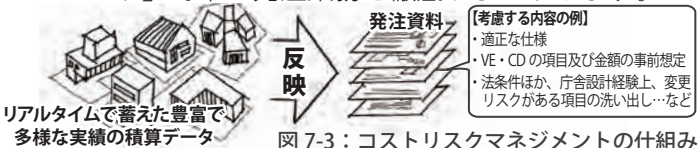


図 7-3：コストリスクマネジメントの仕組み







### 配置計画の基本的な考え方

- ①山なみ・既存庁舎・周辺施設と調和する地形を生かした低層部と階高を抑えたコンパクトな4階建ての構成とします。
- ②四方からの車のアクセスや、周辺施設などからの多様な歩行者アクセスを考慮し、歩車分離を徹底します。
- ③「桜川ひろば」や「ステップギャラリー」など、市民協働の居場所・周辺施設とのつながりを生み出す計画とします。
- ④工事工程と土工事範囲を最小限に抑えながら、市民サービスを継続した建替えが可能な建物配置とします。
- ⑤多目的に使える駐車場とひろばを設け、イベントや災害時にスムーズに機能転換できる計画とします。

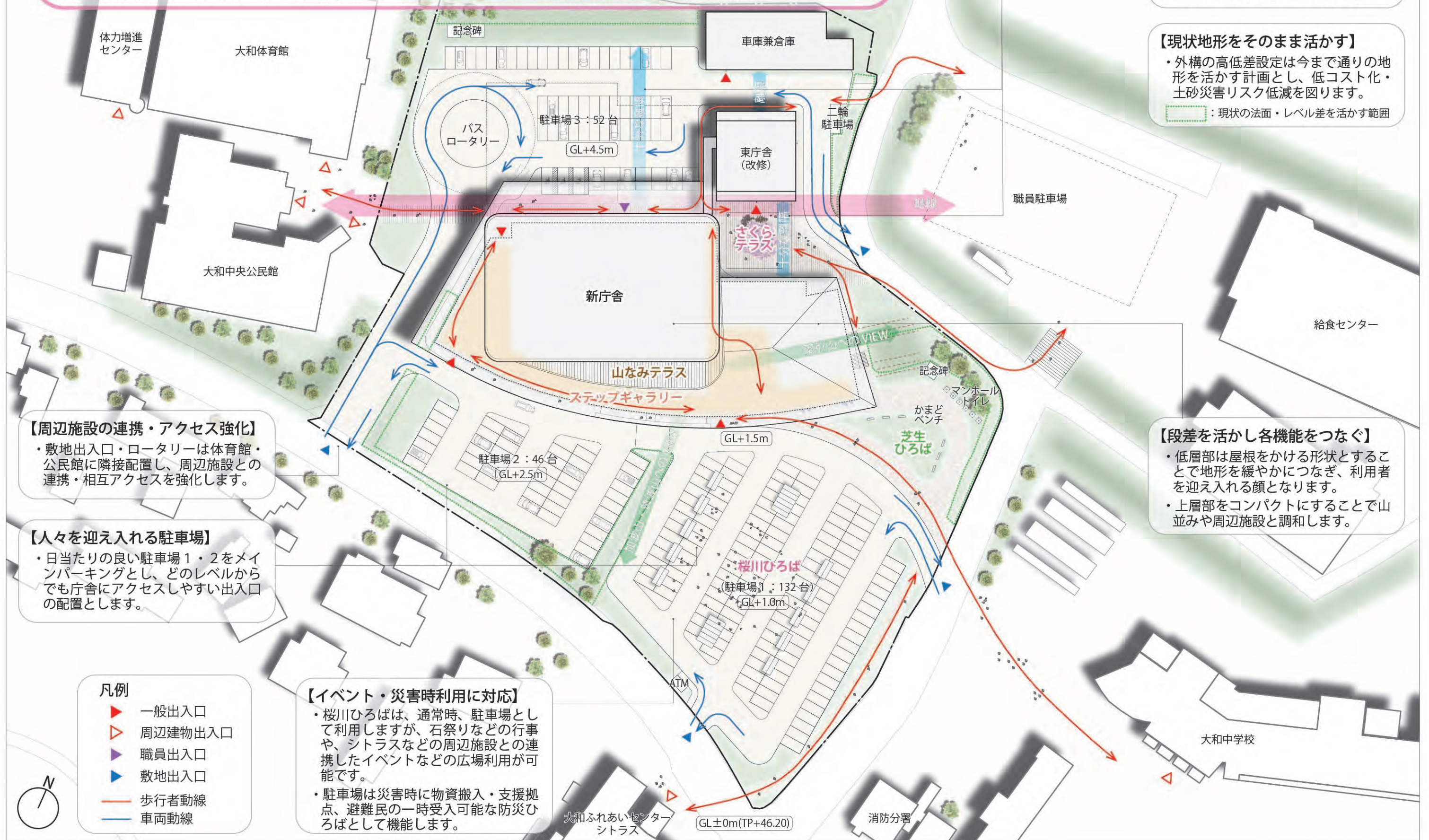
### 【ゆとりのある建物間隔】

- ・新庁舎は階高を抑え、山からの離隔を十分にとることで北側エリアも明るく安全な環境を確保します。
- ・ゆとりある隣棟間隔とし、通路の確保や広場の創出を可能とします。

### 【現状地形をそのまま活かす】

- ・外構の高低差設定は今まで通りの地形を活かす計画とし、低コスト化・土砂災害リスク低減を図ります。

：現状の法面・レベル差を活かす範囲



### 【周辺施設の連携・アクセス強化】

- ・敷地出入口・ロータリーは体育館・公民館に隣接配置し、周辺施設との連携・相互アクセスを強化します。

### 【人々を迎え入れる駐車場】

- ・日当たりの良い駐車場1・2をメインパーキングとし、どのレベルからでも庁舎にアクセスしやすい出入口の配置とします。

### 【段差を活かし各機能をつなぐ】

- ・低層部は屋根をかける形状とすることで地形を緩やかにつなぎ、利用者を迎え入れる顔となります。
- ・上層部をコンパクトにすることで山並みや周辺施設と調和します。

### 【イベント・災害時利用に対応】

- ・桜川ひろばは、通常時、駐車場として利用しますが、石祭りなどの行事や、シトラスなどの周辺施設との連携したイベントなどの広場利用が可能です。
- ・駐車場は災害時に物資搬入・支援拠点、避難民の一時受入可能な防災ひろばとして機能します。

### 凡例

- ▶ 一般出入口
- ▷ 周辺建物出入口
- ◀ 職員出入口
- ▶ 敷地出入口
- 歩行者動線
- 車両動線



配置図

0 5 10 15 20m



**地形を活かす低層階(-1階)の基本的な考え方**

- ①市民窓口を集約し、総合窓口やプライバシーに配慮した窓口を設け市民サービスを向上します。
- ②桜川ひろばと連携利用できる大会議室や市民利用可能な会議室を設け、市民協働のステージを作ります。
- ③段差をつなぐステップギャラリーには情報スペースや休憩スペースを配置し、協働を促します。

**【周辺施設連携を高める動線計画】**

- ・バスロータリー・バス待合を北西に配置し、周辺施設にアクセスしやすい計画とします。

**【わかりやすく使いやすい窓口】**

- ・バスロータリーやフロアレベルにある駐車場から近い位置に総合案内や電子窓口を配置し、手続きや目的階への移動をスムーズにします。
- ・市民の相談内容に応じ、プライバシーに配慮したカウンターや個別の相談室、キッズコーナーなどを配置します。

**【段差を活かし各機能をつなぐ】**

- ・3つの地盤レベルをスムーズにつなげ、各々の活動や情報が「見る見られる」の関係で触発する空間とします。
- ・周辺施設間を移動しやすいよう内外共に緩やかなスロープで回遊性を高めます。

**【合理的なセキュリティ計画】**

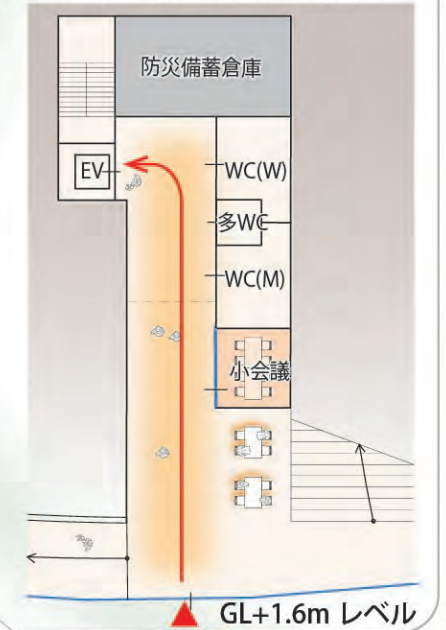
- ・職員通用口近くに中央監視室を配置し、夜間出入口と兼用することで合理的なセキュリティ計画とします。

**【市民協働の居場所づくり】**

- ・東庁舎に市民利用可能な会議室を集約し、市民協働の居場所をつくりながら、休庁日の単独利用も可能です。
- ・災害時には職員休憩所やボランティア支援室として利用できます。

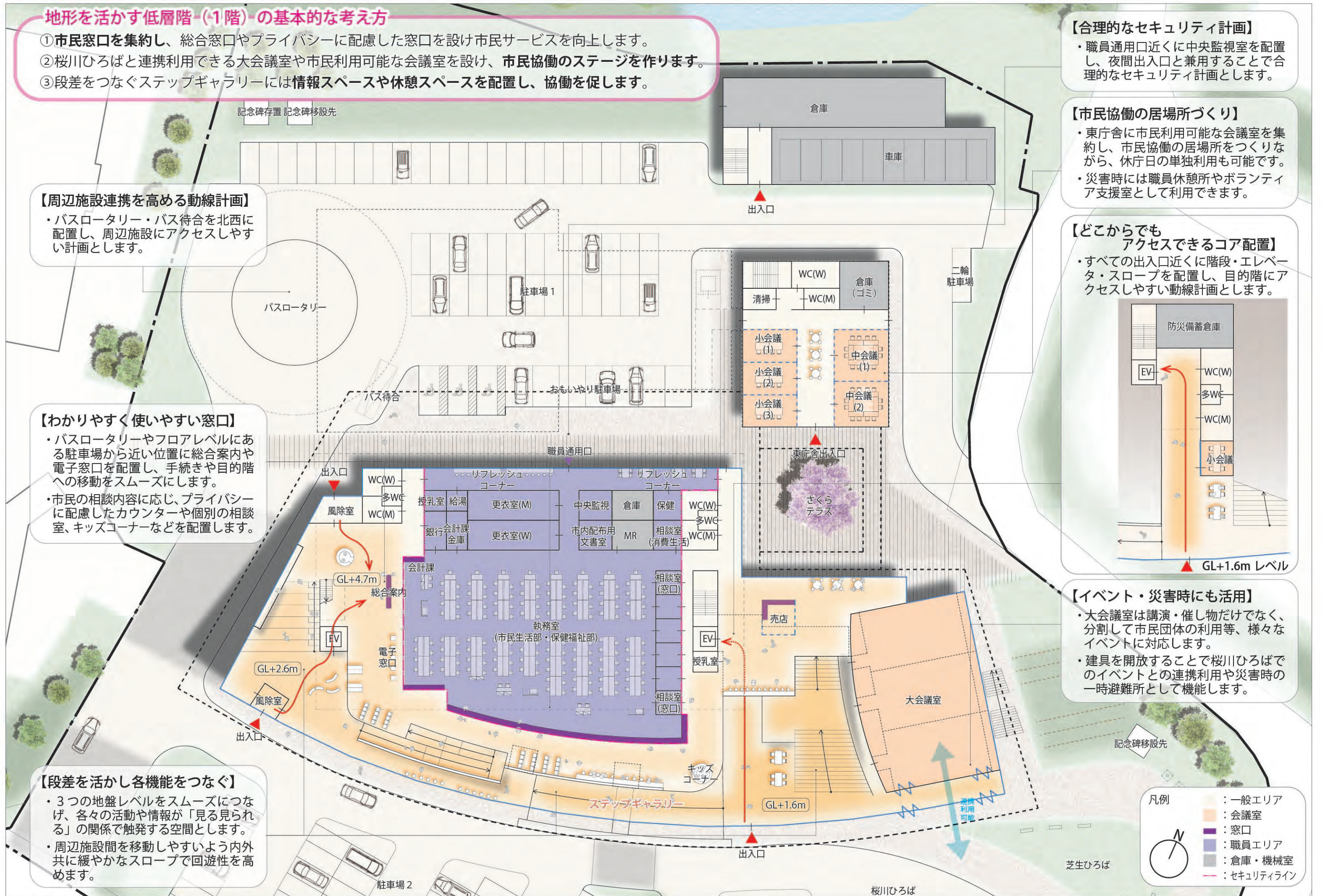
**【どこからでもアクセスできるコア配置】**

- ・すべての出入口近くに階段・エレベータ・スロープを配置し、目的階にアクセスしやすい動線計画とします。



**【イベント・災害時にも活用】**

- ・大会議室は講演・催し物だけでなく、分割して市民団体の利用等、様々なイベントに対応します。
- ・建具を開放することで桜川ひろばでのイベントとの連携利用や災害時の一時避難所として機能します。

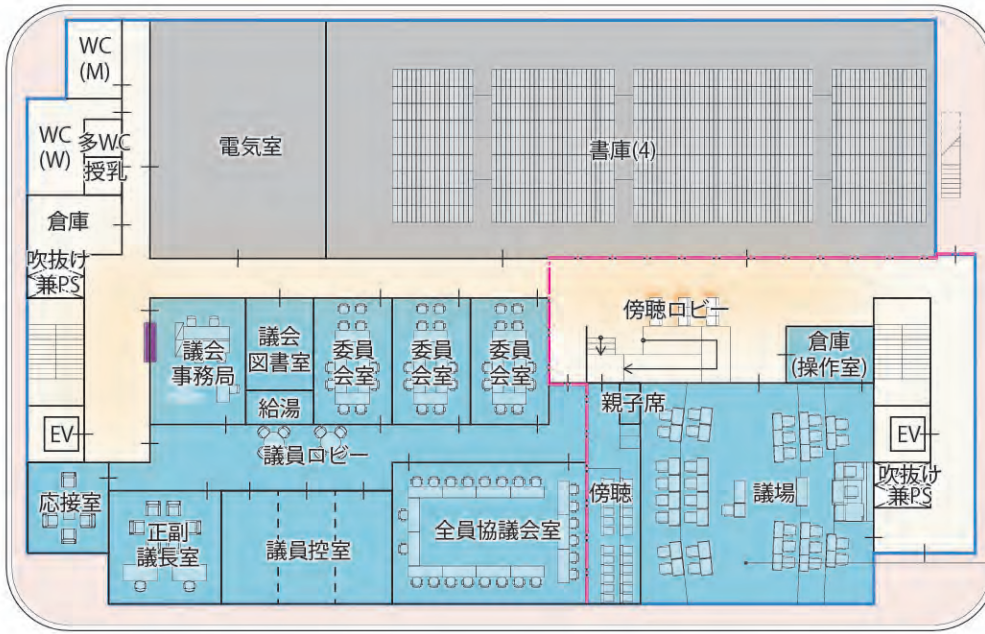


1階平面図



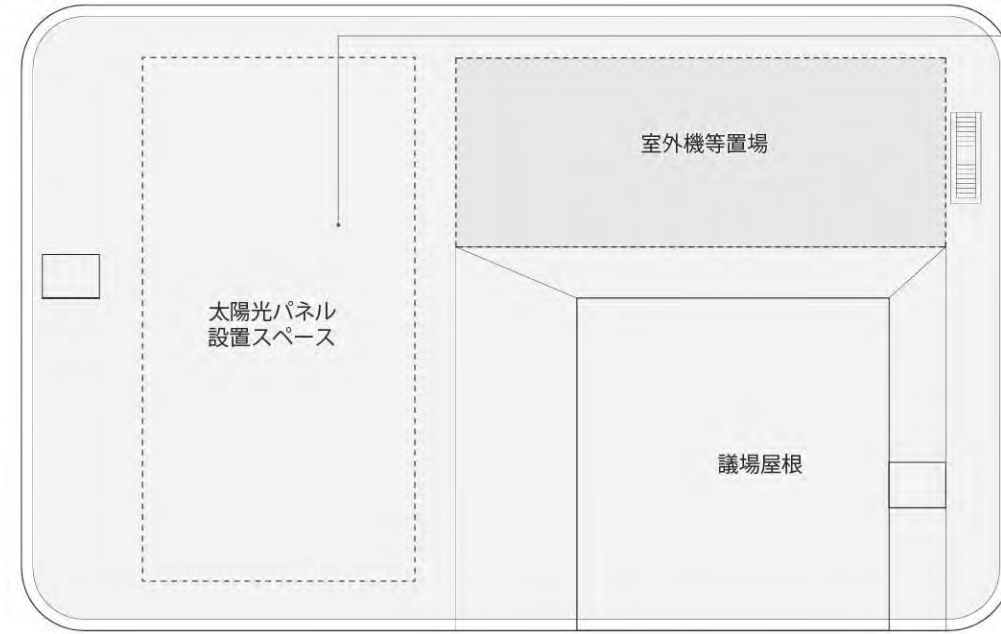
コンパクトな上層階-(2~4階)-の基本的な考え方

- ①上層階は関連性の高い部課や機能を階ごとにまとめ、効率的な配置とします。
- ②政策・行政管理、災害対策本部機能を3階に集約し、災害時にも迅速な対応が可能な計画とします。
- ③会議室機能を集約した東庁舎と各階で接続し、効率的でフレキシブルな連携を可能とします。



**【市民に開かれた議会】**

- ・傍聴ロビーや十分な席数をもった傍聴席を設け、市民が訪れやすい議場とします。
- ・来訪者の管理がしやすいように議会事務局をエレベータ前に配置します。
- ・議場は市民開放が可能な設えを検討します。



**【屋根を利用した環境配慮】**

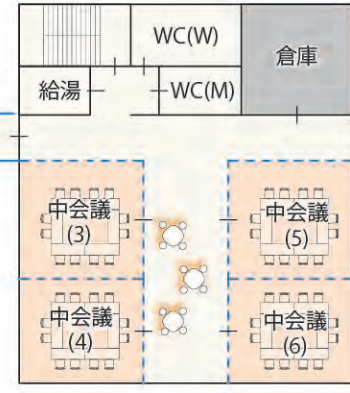
- ・屋上は室外機だけでなく、太陽光パネル（現庁舎からの移設も検討）を設置し、屋根スペースを有効活用します。

**【効率的で快適な執務室配置】**

- ・打合せや休憩に使えるスペースを適度に配置し、職員が快適に過ごせる計画とします。

**【既存庁舎との接続】**

- ・渡り廊下は東庁舎の既存開口部を極力活用した接続とします。
- ・十分な距離を確保し、隣棟間の階高差を緩やかなスロープで解消します。

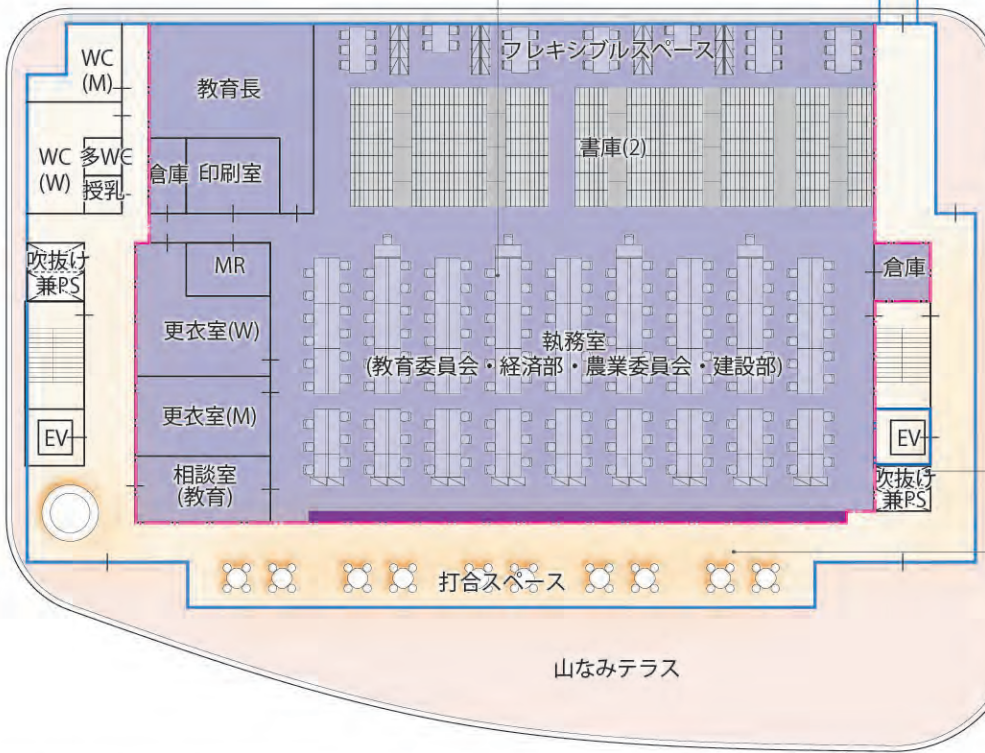
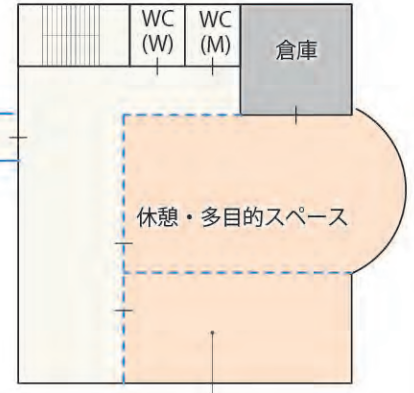


**【災害対策本部機能と行政機能の連携】**

- ・市長公室、総務部（危機管理課）、防災対策室を3階に集約して配置し、効率的な行政と迅速な災害時対応が可能です。

**【東庁舎のバリアフリー化】**

- ・東庁舎は新庁舎と各階で接続しつつ、必要に応じてエレベータの新設を検討します。

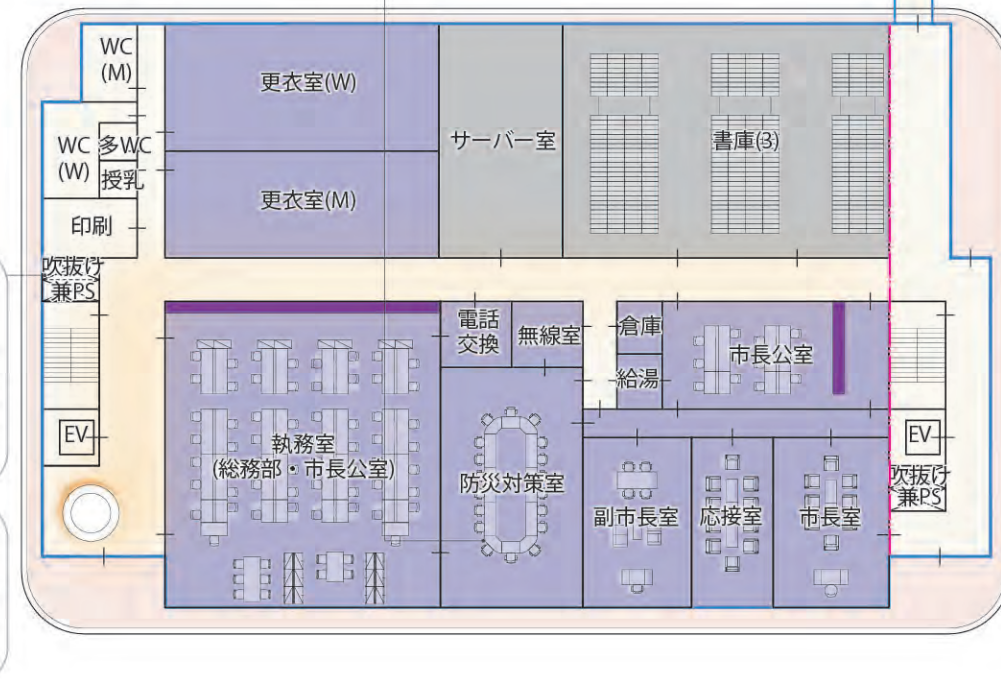


**【将来の更新がしやすい設備ボイド（吹き抜け）】**

- ・通風を促す吹き抜けにPSを隣接させることで、給排水更新時は、吹き抜けとPSの役割が反転し持続的に機能します。

**【明るくゆとりのある共用部】**

- ・業務窓口は十分な打合せスペースを設けたゆとりのある空間とします。



**【会議スペースのバックアップ】**

- ・休憩・多目的スペースは職員の休憩やイベント利用が可能なほか、会議室が満室の際は会議室利用も可能な設えとします。

凡例

- 一般エリア
- 会議室
- 窓
- 職員エリア
- 議会エリア
- 倉庫・機械室
- セキュリティライン



## 新本庁舎建設工事時



山留は、防振仕様指定とし、本庁舎施工時、西庁舎解体時の振動を抑えます。

【提案】  
職員・公用車駐車場  
(現大和運動場)  
※野球場利用していない範囲

・工事期間中の駐車台数が極力減少しないよう、周辺施設再編の時期等についても提案を行います。

【提案】一般駐車場③  
(現給食センター駐車場)  
※現状のまま活用  
約60台

・新庁舎はRC系主体の構造とすることで、西庁舎解体時の騒音・振動を抑えます。

・段上の構成とすることで、深すぎる掘削の範囲を減らし、地盤アンカー等の大々的な山留が極力発生しない計画とします。

・工事期間中もシトラスの利用者や災害時利用に配慮し、現状の仕様を前提とした一定規模の駐車場を常に確保します。

・工事エリアへの出入口付近には、交通誘導員の配置を提案し、安全性に配慮します。

### 仮設計画のポイント

- ① 一般車両と工事車両は原則として交錯のない計画とし、適材適所で交通誘導員を配置することで、高い安全性を有した計画とします。
- ② 工事中も各所に駐車場を確保する計画を複雑な各工事段階ごとに丁寧に提案し、継続的な行政サービスを支援します。
- ③ 竣工後だけでなく仮設段階も含めて現状の「地形」や「使われ方」に応じた計画とすることで、災害や事故等に対して安全でコスト効率の高い計画とします。
- ④ 建物規模や敷地特性にベストマッチの低振動・低騒音型の重機や仮設資材が採用可能な工事効率も高い計画とします。

## 東庁舎改修・西庁舎解体工事時工事時



・現状の法面を極力削らない計画とすることで、地盤が現状より緩くならない計画とします。

・西庁舎の既存杭は残置する計画とすることで、余分なコストをかけずに、敷地の地盤の安定化が図れ、騒音振動も少ない解体計画とします。

### 凡例

- 主要な一般車両動線
- 主要な工事車両動線

仮設配置計画図

0 5 10 15 20m